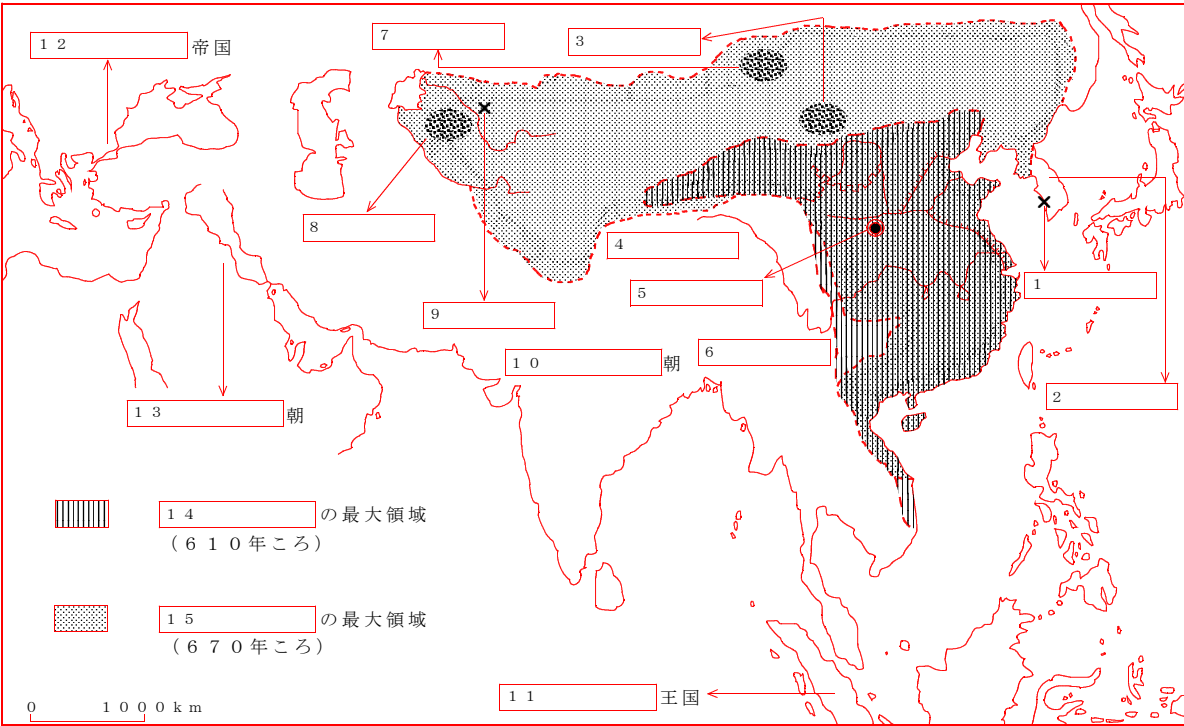


第3章 2 東アジア文化圏の形成 b. 唐世界帝国の成立(2)



隋・唐時代のアジア

④東西交易の活発化

・陸上貿易([1 ソグド]人が中心)…[2 絹の道(オアシスの道)]などを通り長安へいたる

ソグド人…中央アジア[3 サマルカンド]付近を原住地とする[4 イラン]系の人々。商業にすぐれ、[5 隊商]をくみ[6 絹の道]を用いた東西交易を中心に担った。[7 マニ]教を信仰し[8 ソグド]文字を伝えた。胡人とよばれる。

・海上貿易…[9 海の道]を経由し、アラブ・イラン出身の[10 ムスリム]商人が中心となる
海港都市の繁栄=[11 広州]や揚州など華中・華南中心
→広州に[12 市舶司]をおいて貿易を監督する

※「海の道」を経由して伝えられたイスラム教([13 回教])もつたえられる。…孫悟空も?!

⑥首都[14 長安]の繁栄…周辺諸国からの[15 朝貢]使節や[16 留学生]、商人があつまる
→ササン朝滅亡にともない[17 イラン]人が大量に移民→イラン風俗が流行
↓
国際都市としての性格を強める→唐の文化の特徴=国際性([18 異国情緒])

三夷教……「絹の道」を経由して伝えられた[19 イラン]系の3つの宗教

[20 ネストリウス派キリスト]教(「景教」)→「[21 大秦景教流行中国碑]」が残される
ゾロアスター教(「[22 祆教]」)、[23 マニ]教

⑥仏教…留学僧=インドの[24 ナーランダ]僧院で学び仏典を中国に持ち帰り、中国語に訳す。
・[25 玄奘]…著書「大唐西域記」=[26 絹の道]を経てインド[27 ヴァルダナ]朝へ、

・[28 義浄]…著書「南海寄帰内法伝」=海路を通りインドへ往復。
東南アジア、とくにスマトラ島の仏教国[29 シュリーヴィジャヤ]王国の繁栄を伝える。

参考) [30 義浄]…東晋の僧、陸路をもちいインド[31 グプタ]朝にいたり、海路を用いて帰国した。旅行記は[32 『仏国記』]

c. 唐代の制度と文化

①(1)行政組織

中央…[33 三省] (中書、門下、尚書)、[34 六部] (実際の行政を担当)、[35 御史台] 行政監察

地方…[36 州県] 制 州—県—里

(2)法制…[37 律令格式]

三省六部…唐代に始まる中央政府の最高機関。[38 中書] 省、[39 門下] 省、[40 尚書] 省の三省と、尚書省に統轄された政務執行機関、吏、戸、礼、兵、刑、工の6つの官庁(六部)。とくに[41 門下] 省は、[42 中書] 省が起草した詔勅(*皇帝の命令)の原案を審議し、差し戻すなどの強い権限をもっていた。

律令格式…唐代に整備された法律体系。律は[43 刑] 法、令は[44 行政] 法。なお格は律令の変更、補充規定。式は施行細則である。

②唐の社会的基礎=[45 均田] 体制

地主勢力を押さえ、[46 自作] 農民に国家が同じ広さの土地を与え、税や兵役を課す

(1)土地制度…[47 均田] 制=成年男子に均等な広さの土地(=[48 口分田] と永業田)を支給する。

(2)税制…[49 租庸調] 制 * + 徭役

(3)兵制…[50 府兵] 制 *

* 租庸調制…[51 均田] 制にもとづき土地を獲得した自作農民から租([52 穀物])、調([53 絹布など])、庸([54 力役])を負担させた。また[55 徭役](地方での労役)も割り当てた。

* 府兵制…[56 西魏] にはじまる軍事制度。[57 均田] 制で土地を与えられた成年男子の農民を徴用し訓練ののち兵士として都や辺境に派遣した。

③唐の政治の基本……機構的には中央集権的だが実際には[58 貴族] が実権を握っていた。

・[59 蔭位] の制により、高位の官僚の子弟は自動的に官職につける
→[60 門下] 省での地位をしめ、「詔勅」(=法)の成否をにぎる。
→しかし、しだいに[61 科挙] を合格した官僚が存在感を増していく

・[62 官人永業] 田などの存在により貴族が広大な[63 荘園] をもっていた